



札教生第 8369 号

令和 2 年 (2020 年) 12 月 22 日

札幌市 P T A 協議会

会長 土田 修 様

札幌市教育委員会

教育長 長谷川 雅英



令和 3 年度「札幌市文教施策に関する要望書」への回答について

師走の候、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から本市の教育行政に格別の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび令和 2 年 11 月 4 日付けで御提出いただきました標記の要望書につきまして、別紙のとおり御回答いたします。

札幌市PTA協議会

令和3年度「札幌市文教施策に関する要望書」に対する回答書

：所管課

要望内容	回 答
(1)学校教育に関して	
【教職員に関して】	
<p>子ども一人ひとりに向き合う時間が増加したことにより、先生方の負担増が考えられることから、負担減のために、教職員が増員されることを希望します。</p> <p>特に、小学校には、指導の不公平感軽減のため、専科教員や外部人材の配置を希望します。</p>	<p>教職員の配置については、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」等の法令を標準に配置しています。</p> <p>小学校専科指導については、教科指導の専門性を持った教員によるきめ細かな指導が可能になるほか、担任の持ちコマ数軽減による負担減にもつながるため、加配定数の増員について、今後も様々な機会を通じて、国に要望してまいります。</p> <p>【参考情報】 小学校専科指導（英語以外）に係る加配定数の推移 H29年度：9人 H30年度：14人 R01年度：17人 R02年度：44人</p> <p style="text-align: right;">教職員課</p>
【少人数学級に関して】	
<p>少人数学級実施を高学年まで引き上げられないかの検討を希望します。</p> <p>また、算数に一ごうプロジェクトの少人数制では、習熟度、理解度に分けた授業への対応を希望します。</p>	<p>現在、札幌市においては、小学校3・4年生における35人学級の実施について検討していますが、国に対しても、少人数学級の実施に必要な教職員定数の拡充を要望しており、少人数学級の一層の拡充について、引き続き働きかけを行ってまいります。</p> <p>算数に一ごうプロジェクト事業は、個々の意見を出しやすい少人数の中で、多様な考え方に触れながら学習することにより、学ぶ意欲や思考力等を育むことをねらうものであり、習熟度によらず25人程度のグループに編成し、5・6年生の算数のほぼ全ての授業についてプレゼンテーション型ソフトを用いた共通教材を活用することで一層授業を充実させ、子どもの「学ぶ力」を育ててまいります。</p> <p style="text-align: right;">教育課程担当課、教職員課</p>

<p>【英語教育に関して】</p>	
<p>教職員の負担軽減とより質の高い指導をお願いするため、専科教員とALTの増員を希望します。</p> <p>また、ALTの小・中学校の連携を希望します。</p>	<p>英語専科指導に係る加配定数については、国における定数改善により、今年度も教員を増員し、積極的に活用してまいりました。今後も、専科指導に係る加配定数の増員について、様々な機会を通じて、国に要望してまいります。</p> <p>また、子どもたちが英語でコミュニケーションを図る力を身に付けるとともに、異文化に対する理解をより深めることができるよう、ネイティブ・スピーカーであるALTを計画的に増員しているところです。</p> <p>ALTの小中連携については、今後も、英語担当教員等が立てた指導計画のもとで、ALTをより効果的に活用できるよう、引き続き検討してまいります。</p> <p>【参考情報】 小学校英語専科指導に係る加配定数の推移 H30年度：9人が25校で巡回指導 R01年度：25人が60校で巡回指導 R02年度：50人が115校で巡回指導</p> <p style="text-align: right;">教育課程担当課、教職員課、教職員育成担当課</p>
<p>【特別支援に関して】</p>	
<p>特別支援を必要とするところへ程度に応じた教職員の適正配置を希望します。</p>	<p>教職員の配置については、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」等の法令を標準に、特別支援学級や通級による指導等において必要な教員配置をしています。</p> <p>今後も、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図ってまいります。</p> <p style="text-align: right;">学びの支援担当課、教職員課</p>
<p>【スクールカウンセラーに関して】</p>	
<p>子どもたちを取り巻く難しい環境を考え、職員の増員並びに、複数人（男性・女性お一人ずつ）の配置の検討を希望します。</p> <p>また、進学での引継ぎなど不安に思う保護者が多いため、小・中学校の連携を希望します。相談体制や予約方法など、保護者にわかりやすい情報発信を希望します。</p>	<p>札幌市では、スクールカウンセラーの任用資格である公認心理士師等の有資格者を100名程度任用していますが、任用者数や男女の割合などから、複数人での配置は難しい状況となっています。</p> <p>また、札幌市では、今年度から、小中一貫した教育を本格的に推進しており、中学校区を基本単位として設定した、小中学校のパートナー校に、可能な限り同一のスクールカウンセラーを配置し、連携が一層進むよう努めているところです。</p> <p>予約方法などの相談の在り方、保護者への情報発信等につきましては、スクールカウンセラーへの相談内容が複雑化、多様化している状況を踏まえ、皆様のご意見も伺いながら、より良いものとするよう、検討してまいります。</p> <p style="text-align: right;">児童生徒担当課</p>

【学びのサポーター・相談支援パートナーに関して】

助けを必要とする子どもたちのための確実な支援のため、人員の増員と活動時間の増加を希望します。
また、進学・進級の際にも、教育的支援や相談支援が途切れることのないよう希望します。

(学びのサポーターに関して)

学びのサポーターについては、1校あたりの年間活用時間数を段階的に拡充してきた他、市立高校への配置拡大、肢体不自由のある児童生徒への身体介助を専門に行う介助アシスタントの配置など、制度の充実に努めてきました。

小学校だけでなく、中学校、中等教育学校、さらには市立高等学校においても、多くの学校でサポーターの配置を行っておりますので、進学後も必要に応じて支援を行うことができるよう運用しているところです。

今後も、各学校において効果的な配置ができるよう運用を進めてまいります。

(相談支援パートナーに関して)

中学校に配置している相談支援パートナーについては、年度途中で各学校の要望等を聞きながら時間調整を図り、活用時間を有効活用できるように取り組んでおります。

また、近年、小学校の不登校児童が増加傾向にあることから、未然防止や初期対応の取組強化を図るため、令和元年度から小学校20校にモデル的に相談支援パートナーを配置しております。小学校段階から早期の不登校支援を行うことは、中学校における不登校対策にも効果が期待されますので、今後は小学校への拡充に努めるとともに、小・中学校における校種間連携を図り、情報の共有に努めてまいります。

学びの支援担当課、教育相談担当課

【教科書・教材に関して】

毎年要望させていただいている、いわゆる置き勉強ですが、学校判断ではなく札幌市全体として、より具体的なガイドラインの作成を希望します。

教育委員会としましては、児童生徒の学びを充実させるために、学校においても、家庭においても、学習用具等が手元にあることは大変重要と考えておりますが、学習用具等の持ち運びが児童生徒に過重な負担とならないよう、発達の段階に応じて配慮することが必要と考えております。

学習用具等の持ち運びについては、学校によって状況が異なることから、市全体として一律の対応とはしておりませんが、各学校がそれぞれの実情に応じて、負担軽減の取組を進められるよう、教育委員会として取組の工夫例を示し、各学校に配慮を促しているところです。また、特に健康面での不安など、個別の相談には丁寧に対応することを学校と確認しているところです。

教育課程担当課

【学校図書に関して】	
<p>「札幌らしい特色ある学校教育」のテーマの1つでもある、「読書」の習慣化を図るために、小学校についても、全校に司書の配置を希望します。</p>	<p>児童生徒の主体的、意欲的な読書活動の推進に向けて、小学校からの読書習慣の定着については、その重要性を認識しているところです。</p> <p>学校図書館司書を全校に配置した中学校とともに、小学校においても学校図書館地域開放事業を含めて、学校図書館運営のよりよい在り方について検討を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">教育課程担当課</p>
【スキー学習・校外学習に関して】	
<p>スキー学習は用具の購入のほか、事前にスキー場に連れていかなければならないなど、目に見えない家庭負担が大きい。</p> <p>スキー学習のあり方を含めた冬季校外学習の（内容や回数について）再検討を希望します。</p>	<p>教育委員会では、「さっぽろっこスキーリサイクル事業」を実施しており、昨年度はセットスキー443セット、単品ブーツ 69 足、単品ストック 26 本を市内小中高等学校に通うお子様がいるご家庭に提供するなど、スキー学習の振興と保護者の経済的負担軽減に努めているところです。</p> <p>国が定めた学習指導要領においては、スキー等の自然との関わりの深い活動について、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことと記されており、本市においては、生涯にわたって運動を楽しみ、たくましく成長していくようスキー学習等を位置付けています。札幌のよさを生かす取組でもありますので、引き続きまして御理解と御協力をお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">教育課程担当課</p>
【部活動に関して】	
<p>指導の充実と担当教員の負担軽減のためにも、外部顧問の更なる活用を希望します。</p>	<p>本市においては、部活動の指導の充実に向けて、教職経験者や地域の人材等を、部活動指導員（外部顧問）や特別外部指導者、外部指導者として各学校で活用しております。</p> <p>特に、顧問教諭がいなくても部活動が設立できる部活動指導員については、今年度、これまでの9人から45人に大幅に拡充し、指導の充実や部活動数の維持に努めているところです。</p> <p>また、部活動については、国の部活動改革の方向性が示されたところであり、今後、外部人材の活用も含めて、本市の部活動の在り方について検討を進めていく予定です。</p> <p style="text-align: right;">児童生徒担当課</p>

【いじめ・不登校問題に関して】

「いじめアンケート」等行っていますが、「いじめ」のみならず虐待等、子どもの悩みは多様化していることから、早期発見・早期対処に向け、アンケート名称、内容についての更なる検討と充実を希望します。

不登校の理由が多様化してきているので、外部関係各所との支援が早く持てるよう、利用可能な支援機関などわかりやすい情報発信を希望します。

(いじめに関して)

平成18年度から全学校で実施しているいじめ調査は、平成24年度に、心理の専門家等の助言を踏まえ、名称を「悩みやいじめに関するアンケート調査」に変更し、いじめを含めた子どもの困りを広く捉えられるよう質問項目も変更して実施しております。

また、虐待を含む多様な悩みの早期発見に当たっては、各学校における教職員による子どもへの丁寧な関わりに加え、定期的な教育相談の実施や、学校独自アンケートの実施により、早期発見に努めております。

特に今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業が終了した6月に、全児童生徒を対象とした「心と体についてのアンケート」を実施し、虐待の兆候等も含めた、子どもの状況把握や支援につなげることができました。

今後も家庭での悩みを含め、様々な子どもの困りを早期に把握できるよう、各学校において、アンケートの工夫等を進められるよう働きかけてまいります。

(不登校に関して)

教育委員会においては、教育支援センターや教育相談室において、不登校のお子さまやその保護者の支援を行っており、これまでも学校等に施設概要や支援内容についての資料を配布して周知を図っております。

また、保護者のご相談内容やお子様の状況に応じて、児童相談所等、必要な関係機関を紹介しながら相談を進めておりますので、安心して教育相談室にご連絡いただきたいと考えております。

情報発信につきましては、札幌市HPへの掲載方法や内容の見直しを図るなど、より分かりやすいものになるよう、改善に努めてまいります。

児童生徒担当課、教育相談担当課

【学校環境・保健衛生・学校設備に関して】

トイレの洋式化について、引き続きの改修と一層の促進を希望します。

また、幼・小・中の多目的トイレの増設を希望します。

現在、児童生徒数に応じて必要な便器数について、洋式化の整備を進めているところです。現時点の計画では、令和5年度末に全ての学校で整備が完了する予定です。

また、多目的トイレについては、改築やリニューアル改修工事等の中で必要な整備を進めてまいります。

学校施設課

【幼稚園に関して】

より安全な環境、保育の質を維持するためにも、柔軟な職員の増員を希望します。

また、幼稚園においてもスクールカウンセラーの配置を希望します。

教職員については、年度当初の学級数及び教育上特別な支援を必要とする幼児の人数に応じて配置し、在園児が安全に園生活を過ごすことができるよう努めております。今後も、教職員全員で連携体制を整え、安全な環境で質の高い保育を実施することができるよう取り組んでまいります。

また、スクールカウンセラーの市立幼稚園への配置は、現時点では難しい状況ですが、幼児教育及び特別支援教育の専門家である幼児教育支援員を各幼稚園に配置し、地域での教育相談を実施しております。子育てのことや、お子様の困りに対する具体的な支援などについて相談を受けておりますので、在園児の保護者の皆様におかれましても、積極的にご活用いただきますようお願いいたします。

児童生徒担当課、幼児教育センター、教職員課

【子どもの居場所作りに関して】

単館の児童会館への移動は防犯の観点からも不安に感じている保護者も多いため、全小学校へミニ児童会館の設置を希望します。

児童会館・ミニ児童会館については、1小学校区に1館整備を行っており、特認校を除くすべての小学校区に整備してまいりました。

現在は、学校の改築等に併せて、学校に併設する児童会館として再整備を進めております。

今後も皆さんに安心してご利用いただける施設となるよう努めてまいります。

子ども未来局放課後児童担当課

(2) 予算に関して

【教育関連予算に関して】

教育活動が円滑に行われ、札幌市独自の施策が行われるためにも、関連予算の維持・増額を希望します。

本市の厳しい財政状況を踏まえ、令和3年度予算においては、前年度に引き続き、事務的経費の削減が見込まれています。

そのような中、教育委員会としても、これまで以上に充実した教育環境の実現を目指し、今後とも必要な予算の確保のため、関係機関に働きかけていきます。

その際には、貴協議会や教育現場等からのご意見を反映させたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。

総務課

<p>【読書活動推進事業に関して】</p>	
<p>児童生徒に豊かな読書環境を提供するため、図書購入費の増額など読書活動推進事業に係る予算の維持・増額を希望いたします。</p>	<p>依然として厳しい財政状況ではありますが、子どもたちの読書活動が活発なものとなるよう、図書購入費について、今後も必要な予算の確保に努めてまいります。</p> <p>また、PTAを中心に地域の皆様に運営に携わっていただく学校図書館地域開放事業においては、図書購入費など必要な経費を委託料に含んでおり、児童生徒の読書環境の充実に活用いただいております。事業の継続、実施校の拡大のため、札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019に事業を位置づけ、必要な予算の維持、確保に努めております。</p> <p style="text-align: right;">学校施設課、生涯学習推進課</p>
<p>【PTA活動に関して】</p>	
<p>現状の基盤維持及び強化のため、今年度と同様の助成を希望いたします。</p>	<p>厳しい財政状況のもと、団体補助金については全庁的に廃止、終了年度の設定などの見直しが求められているところです。</p> <p>一方、貴協議会が行う学校・家庭・地域等との連携による諸事業は、本市の社会教育の振興に大きく寄与するものと認識しております。今後も、これらの事業に対する支援を継続できるよう関係機関に働きかけてまいります。</p> <p style="text-align: right;">生涯学習推進課</p>